

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670400193
法人名	医療法人 慈生会
事業所名	高齢者グループホーム 福祿寿
訪問調査日	平成 20年3月24日
評価確定日	平成 20年4月22日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670400193
法人名	医療法人 慈生会
事業所名	高齢者グループホーム 福祿寿
所在地 (電話番号)	枕崎市宮田町172番地1 (電 話) 0993-72-6608
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年3月24日

## 【情報提供票より】(平成20年3月8日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年2月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.8人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	ウエルフェア九州病院 サザン・リージョン病院 鮫島歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路沿いの住宅地に位置している。一般の住宅のような外観から、周囲の住宅に溶け込み違和感を感じさせない造りとなっている。建物内は天井が高く、多くの開口部から光と風が入り、快適な生活を送ることができる。同一法人グループの病院や訪問看護ステーションによる医療連携体制をはじめ、法人全体で活動している認知症家族の会、年1回実施する内部監査等々、母体法人の有する経営資源を有効に活用しながら、入居者及びご家族への支援を実践しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「個別の栄養摂取状況の把握」や「金銭管理の支援」等、前回指摘された課題について、運営推進会議で報告するとともに、期間を設定して計画的に取り組んだ結果、全ての項目が改善に至っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員が自己評価及び外部評価を実施する意義を十分に理解している。自己評価は管理者を中心にミーティング等の時間に職員全員で話し合いながら実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、ご家族をはじめ地域代表者、行政担当者、法人担当者等様々な立場の方が参加し、ホームから活動内容や今後の計画、外部評価の結果等を公表している。参加者からは、質問や意見・要望が出され、双方向の会議となっており、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の来訪時や運営推進会議(ご家族が交替で出席)、家族会等、話を聞くために様々な機会を設け、居室には連絡ノートを置き、ご家族と職員間での意見交換や報告を行っている。玄関には意見箱も設置している。出された意見や要望については、ミーティングで話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアや見学、研修等を受入れたり、近隣の方が畑仕事やゴミ出しを手伝うなど、地域の人々との交流を密に行っている。自治会に加入しており、回覧板や法人本部からの行事案内により情報を得て、十五夜等の地域行事に積極的に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初、管理者を中心に職員全員で話し合い、地域との繋がりを大切にしたい理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	タイムカードの前に理念を掲げており、職員は出勤時に確認するよう義務付けている。全員が参加するミーティングでは、日々のケアが理念に基づいて実践されているか、振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアや見学、研修等を受入れたり、近隣の方が畑仕事やゴミ出しを手伝うなど、地域の人々との交流を密に行っている。自治会に加入しており、回覧板や法人本部からの行事案内により情報を得て、十五夜等の地域行事に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を十分に理解している。評価により明らかになった課題については、全員で話し合い、改善計画書を作成して迅速に取り組んでいる。また、これら一連の評価作業とは別に、法人の内部監査(年1回実施)により、サービスの質向上に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族をはじめ地域代表者、行政担当者、法人担当者等様々な立場の方が参加し、ホームから活動内容や今後の計画、外部評価の結果等を公表している。参加者からは、質問や意見・要望が出され、双方向の会議となっており、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、ホーム便りにより活動内容をお知らせしたり、管理者や法人の担当者が出向いて質問や相談を行っている。運営推進会議以外には、市担当者がホームを訪れることはほとんど無く、交流会への参加依頼などの働きかけを行っている。		市担当者への状況報告にとどまらず、ホームでの暮らしぶりを実際に見ていただくなどして、サービスの質向上に共に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごとの写真を載せた「福祿寿たより」を、ご家族の希望される部数お送りして、ホームでの暮らしぶりを報告している。ご家族が来訪された際には、心身の状況等について看護師が説明している。遠方のご家族には電話でお知らせしている。「預かり金収支明細書」を請求書と共に送付し、「確認書」に署名捺印をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時や運営推進会議(ご家族が交替で出席)、家族会等、話を聞くために様々な機会を設け、居室には連絡ノートを置き、ご家族と職員間での意見交換や報告を行っている。玄関には意見箱も設置している。出された意見や要望については、ミーティングで話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を十分認識しており、異動や離職が最小限となるよう努力している。やむを得ず交代する場合も、新しい職員が入居者と馴染むまでは、以前から勤務する職員とペアで活動できるようにシフトを調整するなど、ダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で実施される研修や外部の研修に、なるべく多くの職員が受講できるように交替で参加している。また、受講後は伝達講習を開催し、全職員が知識を共有できるようにしている。年間研修計画や、管理者・職員を段階に応じて育成するための計画等は今のところ作成していない。	○	職員各自の置かれている立場や経験、業務に対する習熟度に応じた学びの機会を確保するために、全体としての研修計画を作成すると共に、個々の特性に応じた計画の作成を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会に参加すると共に、2ヶ月に1回、近隣のグループホームと入居者を含めた交流会を実施している。その中で職員間の意見交換を行い、気付いたことをミーティングで再度話し合うなど、自ら提供するサービスの質の向上に役立っている。		入居者を含めた交流会の他、職員のための相互訪問や勉強会の開催など、更なる向上のために検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や体験入居をしていただいたり、職員が自宅や入所中の施設を訪問して面談し、納得した上でサービスを利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	永年、調理の仕事に携わっていた入居者が、食事の支度において中心的な役割を果たしたり、昔からの習慣や料理の方法などを入居者から教わるなど、「入居者は人生の先輩である」という考えを職員が共有しており、あらゆる場面において入居者主体の生活の実践に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いや暮らし方の希望、意向を、本人やご家族との会話の中で把握している。1日2食が習慣となっている入居者の希望に沿って、無理やり3食摂ることを強要せず、栄養士と相談の上、栄養分を他で補うよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意見や希望をはじめ、日頃の暮らしぶりの中で職員が気付いたことをそれぞれ出し合いカンファレンスを行っている。その議事録は法人の関係者(理事長や病院長、総師長他)に回覧し、更に意見や指示を受けた上で計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて定期的にモニタリングや評価を行うとともに、期間の途中であっても、入居者の状態に変化が生じた場合は、実情に応じたケアができるように介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションによる24時間の対応や入居者の日常的な健康管理、状態悪化時における医療機関との連絡・調整に加え、法人が組織する認知症の家族会(コスモス会)における勉強会やスタッフを交えた家族同士の座談会の開催など、様々な機能を活用しながら柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診はご家族の同行を原則としているが、必要に応じて情報提供表や紹介状を使うなど、主治医との間で情報を共有できるように工夫している。ご家族の同行が困難な場合はホーム側で対応し、受診結果等をご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合や看取りに関する指針が明記されており、入居の際に担当者が説明の上同意を得ている。入居後は、病状の悪化等状態の変化に応じて、適宜、ご家族や主治医と相談し、訪問看護師や職員も含めて全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアル等を適宜活用しながら、居室へ入室の際の声掛けをはじめ、入浴や排泄介助の際の羞恥心への配慮、個人の記録や情報の管理等を適切に行っている。個人情報の保護について、入職時に誓約書を提出しており、新人研修の中で個人情報保護について学んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合や決まりにとらわれずに、今までの生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態や希望に合わせて起床や食事が出来るように、柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、調理、配膳、下膳など様々な場面にてできる範囲で入居者が参加している。近隣住民からいただいた季節の食材を使ったり、行事のメニューや調理方法を入居者に聞くなど、食事が楽しみなものとなるように支援している。個別に好みを聴き取り、食べ残しを確認しながら、メニューによっては代替品を準備するなどの配慮もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入居者の希望を優先しているが、バイタルや顔色、その日の状態等、総合的に判断した上で入浴の可否を判断している。入浴時間や順番についても希望に応じて柔軟に対応し、入浴をゆっくり楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物の始末や掃除、干し大根づくりなどのできることや得意なことを把握して、日々の生活が生きがいのあるものになるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や買い物、ドライブや美容院の利用など、ホームの中だけで過ごさず、日常的に戸外に出かけることができるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある方の把握や玄関のドアチャイム等を活用しながら、職員が見守りに注力することで、日中居室や玄関に鍵をかけることはない。単独で外出された場合も想定して、日頃から近隣の方々に協力をお願いするなど、良好な関係づくりに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応において、近隣の方も通報担当者として組み込むなど地域と一体となった体制を築いている。災害対策マニュアルを作成するとともに、年3回、通報・避難・消火訓練等を定期的実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立を目安に、栄養バランスに配慮した食事づくりを行っている。食事や水分の摂取状況は、チェック表を使い適切に管理している。入居者それぞれの食習慣や生活様式を把握し、それぞれに対応した適切な食事支援を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、入居者は台所と一体となった共有スペースで過ごすことが多く、食事をつくる匂いやまな板の音などで生活を実感することができる。ホーム周辺に咲いた花々を採ってきて飾るなど、季節を感じながら心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談しながら、入居の際に使い慣れた座椅子や整理タンス等を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真を飾るなど、居心地よく暮らせるように支援している。		